

令和 4 年度学校経営方針

比治山女子中学・高等学校

はじめに

令和元年度に比治山女子中学・高等学校は創立 80 周年を迎え、創立 90 周年に向けて新たなスタートを切ったところである。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の急激な感染拡大に伴い、令和 2 年度及び令和 3 年度実施予定の重点事業の多くは延期や中止、もしくは大幅な見直しを余儀なくされた。

令和 4 年度事業計画は、令和 3 年度に策定した第二期中期計画の初年度となることから、可能な限り予定通りに実施し、令和 9 年度までに重点事業の目標を達成できるように取組を推進したい。

しかしながら、目標を達成するための具体的な取り組み等は、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、感染の状況に応じて柔軟に対応する必要がある。したがって、どのような方法で実施することが最善あるいは次善であるか、常に見直しを進めながら目標達成のために最大限の努力を行っていく。

I 建学の精神

「親心に応えて悠久不滅の生命の理想に向かって精進する」人間を育成する。

II ミッション

生涯にわたって社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、グローバル社会に貢献できるための生き方・在り方について自ら考え、判断し、精進することができる女性の育成

- (1) 心安らかに他者とコミュニケーションをとることができる生徒。【正直】
- (2) 生涯にわたって学ぶ姿勢を持ち続けることのできる生徒。【勤勉】
- (3) 文化的な態度で、生命の保持・発展に寄与できる生徒。【清潔】
- (4) 幅広い視野を持ち、多様性を認め、他者理解のできる生徒。【和合】
- (5) 伝統を継承しつつ、国内外問わず、持続可能な社会の発展に貢献できる生徒。【感謝】

III ビジョン

- (1) 感性や社会性を身につける学びを通して、ひとりの人間としての確かな土台をつくりあげるとともに、生徒の学力を着実に伸ばし、高い進路目標を達成している。
- (2) 学習活動、部活動、学校行事等を通じて、多様性を認め、自己の主体性を確立し、豊かな感性と感謝の心を兼ね備えた女性を育成している。
- (3) 比治山の女子教育のブランドイメージが高まり、生徒、保護者、教育関係者から信頼され存在感のある学校になっている。
- (4) 中期収支見込の黒字化に向け、経営改革の取組みを着実に進めている。

Ⅲ 重点事業

第二期中期計画の初年度となる令和4年度事業計画では、ビジョンの達成に向けて、重点事業を定め、具体的な取り組みを着実に推進する。

	重点事業名	事業内容	令和4年度計画
1	学活・総合的な探究の時間の再編成	学活・総合を土曜日に移動（例：1.2限学活、3.4限総合）させることで、校外での学びを」容易にし、大学や企業、地域と連携した大胆な学活・総合の指導計画を策定する。	学活・総合の指導計画の検討
2	魅力ある中学体験学習・研修旅行・修学旅行の検討	重点事業1など、本校で行う教育内容と中学体験学習及び研修・修学旅行の行き先・内容をリンクさせる。	体験・旅行の行き先・内容の検討、体験先・旅行先の決定
3	比治山セミナーの充実	本校教員・生徒が、授業体験活動、クラブ体験活動を実施。	セミナーの内容の深化
4	地域への指導者派遣	うじな陸上クラブを母体とする小学生グループへの指導者派遣を行う。また、必要に応じて、本校の部員も指導補助を行うことで、技術の再認識と指導力の向上に寄与させる。	指導者の派遣
5	「ひじっこみゆにていーくりーん」の発展	従来のひじっこみゆにていーくりーんの活動を継続・発展し、地域社会と学校との関係性を生徒が主体的に考え行動する姿勢を育む機会とする。	コロナ禍における清掃活動の衛生的実施方法の再検討。 アフターコロナにおける活動を想定した実施方法の検討。
6	小学校などへのクラブ派遣	小学校、特別養護老人ホームなどへ吹奏楽部、箏曲部、合唱部、ギターマンドリン部などを派遣し、音楽鑑賞会を行う。 体育系の部活動を派遣し、体験教室を開催する。	小学校への派遣2回
7	小学生を対象とした土曜ひじやまクラブの創設	地域の小学生を対象にした本校生徒、教員、クラブコーチ等による英語教室や習い事教室を設立し、隔週土曜日に実施する。	土曜ひじやまクラブの検討
8	比治山サポートルームの設置	不登校傾向・保健室登校の生徒を対象にした比治山サポートルームを設置する。	比治山サポートルームの設置準備
9	学校説明会・オープンスクール等の充実	学校説明会、授業体験、クラブ体験、施設見学、制服試着、食堂体験	小学生対象2回 中学生対象2回
10	平和公園・広島駅等でのボランティア活動の推進	1年時の学びのポートフォリオの時間に事前学習を行い、2年次に校外において native speaker に対し英語でボランティア活動を行う。（高校1年、2年の英語コースと国際言語コミュニケーション群を対象とする）	事前学習（校内にて）
11	ICTを活用した個別最適化学習の推進	適切なアダプティブ学習アプリを選定し、全校生徒に導入する。	導入アプリの検討・決定 アプリ利用方法の研究
12	効果的な教育ソフトウェアの導入とICT機器の整備	ICTツール：グループウェアの見直しを図る。 基盤システム：①令和4年度に学籍ソフト、学籍サーバーを更新する。②令和6年度に職員室のPC等を更新する。 教育・研究系システム：令和6年度CAI教室のPC等を更新する。令和7年度に教員用・予備iPadを更新する。	基盤システム：学籍ソフト、学籍サーバーの更新
13	生徒減少に対応した今後の学校の在り方検討	第二期中期計画の重点戦略ビジョンのひとつに掲げている「入学者確保」、受験者層との接触機会を増やし意欲のある入学者確保の取組として、「小学校へのクラブ派遣」、「小学生を対象とした土曜ひじやまクラブの創設」、「比治山サポートルームの設置」、「学校説明会・オープンスクールの実施」などの重点事業を中心に取組を展開する。	総生徒数 700人 中学生徒数 200人 高校生徒数 560人 教育活動し差額（減価償却費含む） ▲1億2千5百万円 教育活動収支差額（減価償却費含まない） ▲4千7百万円